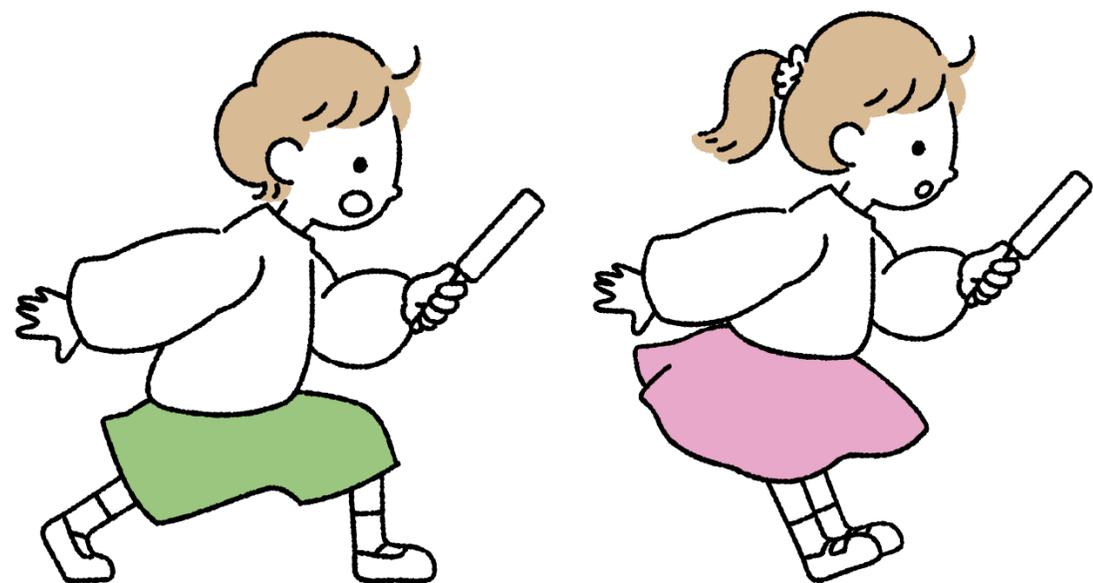


## 推進テーマ

# 幼保小の架け橋プログラムの推進 ～はじめての一步～



みたけ台地区

学校法人宮田学園 三陽保育園・三陽幼稚園

学校法人原田学園 みたけ台幼稚園

社会福祉法人祥泉福祉会 りんどう保育園

横浜市立みたけ台小学校

## 推進テーマの設定理由



- 【幼保小架け橋プログラム】について意図を把握し、学校全体で取り組みたい。
- 幼稚園や保育園ではどのような生活、支援をしているか共有することで子どもの育ちと学びの連続性を理解する。
- 自らが学びの主体となり、「自立する学習者」を育てる探究的な学びをつくる授業づくりに繋げる。

## 今年度の推進内容

- スタートカリキュラムを見直し、学校全体で『架け橋プログラム』の取り組みを理解し、支援体制を構築する。
- 育ちの連続性を活かした保育参観や授業参観を行う。
- 園児、児童の交流を重ねる。
- 合同研修を通して職員同士の関係をつくる。

## 今年度の重点課題

### 子どもの育ちと学びの連続性の理解

スタートカリキュラムの見直し  
保育参観研修（りんどう保育園・みたけ台幼稚園訪問）  
共通絵本購入

### 園児、児童の交流活動の充実

第一回交流会『あきまつり』  
第二回交流会『絵本の読み聞かせ、小学校紹介』

### 幼保小の顔の見える関係の構築

職員合同研修『飛び出す絵本づくり』

子どもの育ちと学びの連続性の理解

スタートカリキュラム なかよしタイムの見直し

昨年度までは各クラスで行なっていたなかよしタイムを今年度は学年全体で行えるようにし、各教室で活動を分け自由に行き来できるようにした。

## 活動の流れ

登校



ランドセルをロッカーにしまう



自分のやりたい活動を選択

1組：カプラ

2組：ダンス・歌など動きのあるもの

3組：ぬりえ・工作など座ってできるもの



校歌が流れたら活動終了



教室に戻り支度



## 成果

### (児童)

- ・着席して学習する形にこだわらず、園での自由保育に近い環境で身体を動かしながら遊ぶことができた。
- ・クラスが違ってても園が同じ友達と一緒に活動できた。
- ・泣いて登校したり登校渋りをしたりする児童がいなかった。
- ・自ら活動を選択できるため、児童の主體的な活動に繋がった。

### (教師)

- ・他のクラスの児童の実態を把握することができた。
- ・活動ごとに教室環境を構成し、安全面の配慮ができた。

○安心して過ごせる環境

○児童主体の活動

○児童の実態把握

## 課題

- ・園の友達との関係性が密になり、新しい友達やクラスの友達の仲間意識が希薄だった。
- ・遊びから学びに結びつけることが難しかった。

『わくわく・ぐんぐんタイム』  
カリキュラムの時間配分、  
活動内容の見直し

# 保育参観研修

○社会福祉法人祥泉福祉会 りんどう保育園 ○学校法人原田学園 みたけ台幼稚園



片付ける場所に写真や色シールの添付



指示が短く、具体的

注目を集める合言葉

声掛けの声色がとても  
優しく安心感

1日の流れをホワイトボードで掲示

★視覚的な支援  
★声掛けの仕方

環境構成としての  
学びの連続性



当番活動



グループ席での制作活動



★一斉指導での活動  
★当番活動

経験としての  
学びの連続性

給食を意識した自園給食



## 園と学校で共通の絵本購入

小学校入学当初にテーマ読書で読む機会が多い動物が出てくる絵本をシリーズで15冊選書



この本保育園で先生に  
読んでもらったよ

この本好きだからまた読めて  
嬉しいな

“園であったものが、小学校にもある”

子どもたちの安心感に繋げる

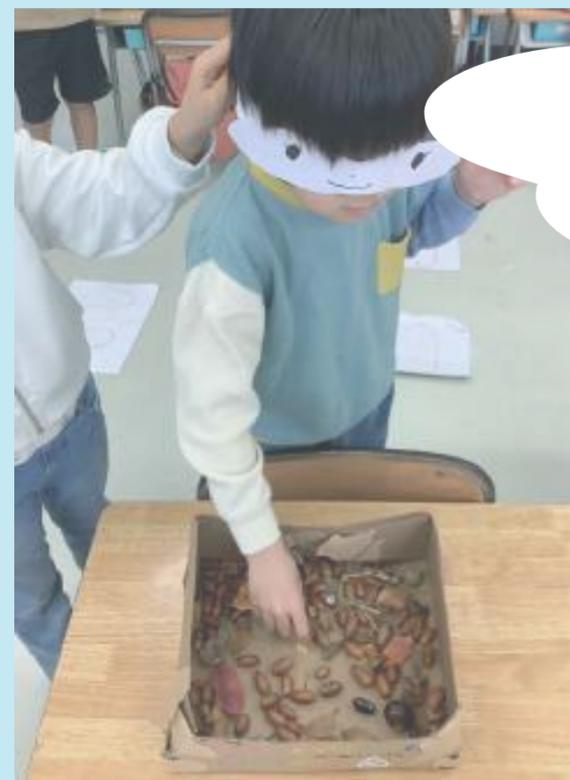
園児、児童の交流活動の充実

あきまつり交流（みたけ台幼稚園・りんどう保育園）

1年生の秋祭りに年長児を招待

実行委員がみんなが楽しく遊べるように交流の約束を伝えた

並ぶ時に足跡マークがあると  
順番を守って並んでくれるかな。



年長さんには難しそうだから  
ルールを簡単にしたよ。



お手本を見せてから遊んだ  
方がわかりやすいかもしれない。

みたけだいしょうがっこうへようこそ  
(みたけ台幼稚園・三陽幼稚園・りんどう保育園・太陽の子桜台第二保育園)

★一年生：小学校について紹介 予定

★五年生：①来年度のペアである年長児に家庭科で作成したフェルト教具を披露  
⇒家庭科専科と連携

②合同で購入した動物の絵本の読み聞かせ  
⇒学校司書と連携



幼保小の顔の見える関係の構築

職員合同研修『飛び出す絵本づくり』

講師によるワークショップ行い、小学校・連携園の職員が各自仕掛け絵本を作り交流



講師：鎌倉しかけ絵本専門店  
メッゲンドルフアー代表 嵐田さん

子どもたちもワクワクしそう。  
ぜひやってみたい。

職員同士が初めて交流できて  
良い機会になった。  
今後も顔が見える関係性でいられるよう  
交流を継続していきたい。



# 1年目の課題 振り返り

## ○本校職員への啓発

- ・研修を行ったり、1年生のスタートカリキュラムの内容を周知したりしたことで、全職員の理解のもと、支援体制を組むことができた。
- ・2月研修予定  
北部OJTサポート事業講座「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」に  
講師：寶來生志子先生

## ○スタートカリキュラムの見直し

- ・担当者を置いたことで、担当者中心にスタートカリキュラムの見直しを行うことができた。

## ○園との日程調整

- ・各園と交流の日程調整を4月に行うことで、見通しを持って活動でき、交流を複数行うことができた。
- ・感染症の流行により、急遽実施できない園があった。再度日程調整は困難だったため、事前に予備日も設けていきたい。

## 成果と課題

### 《成果》

- ・スタートカリキュラムを見直したことで、子どもたちが安心して学校生活をスタートすることができた。
- ・子どもたちが中心となり、相手意識をもって活動の計画や運営を行うことができた。
- ・小学校に来校する機会が増え、雰囲気を知ることができ、園児が入学に向けて安心感や期待感が高まったように感じる。

### 《課題》

- ・スタートカリキュラムに関しては周知できたが、『架け橋プログラム』に関しては不十分である。
- ⇒ **(校内)** 1年担任のみではなく職員全体で取り組みについての理解が必要である。
- ⇒ **(ブロック)** 二年間の学びのつながりを一緒に考えていく必要がある。